

## 微分方程式 レポート課題 2019/10/28(月)

担当教員：江夏 洋一 (A208 教室, 17:10-18:50)

1. 次の問いに答えよ. ただし,  $' = \frac{d}{dt}$  である.

(1) 次の微分方程式の平衡状態 (あるいは平衡点) を求めよ. ただし,  $r, K > 0$  である.

(例)  $x' = 3x^2 - 1$

(答) 微分方程式  $x' = 3x^2 - 1$  の平衡状態は  $x = \frac{1}{\sqrt{3}}, x = -\frac{1}{\sqrt{3}}$  (平衡点は  $\frac{1}{\sqrt{3}}, -\frac{1}{\sqrt{3}}$ ) である.

$$(i) x' = 2x - 7 \quad (ii) x' = rx \left(1 - \frac{x}{K}\right) \quad (iii) x' = x - 4x^3$$

(2) 微分方程式  $x' = f(x), f(x) = rx \left(1 - \frac{x}{K}\right)$  について, 次の間に答えよ. ただし,  $r, K > 0$  である.

(a) 関数  $f(x)$  の導関数  $\frac{df(x)}{dx}$  を求めよ.

(b) 微分方程式  $x' = f(x)$  の安定な平衡状態および不安定な平衡状態をそれぞれ求めよ.

(3) 微分方程式  $x' = f(x), f(x) = x - 4x^3$  について, 次の間に答えよ.

(a) 関数  $f(x)$  の導関数  $\frac{df(x)}{dx}$  を求めよ.

(b) 微分方程式  $x' = f(x)$  の安定な平衡状態および不安定な平衡状態をそれぞれ求めよ.

注意. 結論を得るまでの途中式過程を必ず明記し, 読み手の立場に立ちながら論述を行いましょう.

裏面：【研究 5.5, p.157】自励系  $x' = f(x)$  の平衡状態の安定性, 補助資料

Step 1 関数  $f(x)$  の点  $x = a$  まわりでの Taylor 展開 (2 章, p.55 ~ [  $a = 0$  : 1 章, p.35 ~ ])

$$f(x) = f(a) + f'(a)(x-a) + \frac{1}{2}f''(a)(x-a)^2 + \frac{1}{6}f'''(a)(x-a)^3 + \dots \left( = \sum_{k=0}^{\infty} \frac{f^{(k)}(a)}{k!}(x-a)^k \right).$$

注意.  $f^{(n)}$  は ( $f$  の  $n$  乗ではなく)  $f$  の  $n$  階導関数である.

例 ( $a = 0$ ). (1) 例 1.1, p.40 :  $f(x) = e^x$ , (2) 例 1.4, p.42 :  $f(x) = \sin x$

$$(1) \quad e^x = 1 + x + \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{3!}x^3 + \dots \quad \left( = \sum_{k=0}^{\infty} \frac{1}{k!}x^k \right)$$

$$(2) \quad \sin x = x - \frac{1}{3!}x^3 + \frac{1}{5!}x^5 - \frac{1}{7!}x^7 + \dots \quad \left( = \sum_{k=0}^{\infty} \frac{(-1)^{k-1}}{(2k-1)!}x^{2k-1} \right)$$

Step 2 非線形関数  $f(x)$  の線形関数 ( $ax + b$  の形) への近似

仮定. 微分方程式  $x' = f(x)$  の平衡状態は  $x(t) = \bar{x}$  である.

Step 1 より, 点  $x = \bar{x}$  まわりでの関数  $f(x)$  の Taylor 展開は,

$$f(x) = f(\bar{x}) + f'(\bar{x})(x-\bar{x}) + \frac{1}{2}f''(\bar{x})(x-\bar{x})^2 + \frac{1}{6}f'''(\bar{x})(x-\bar{x})^3 + \dots \quad (*)$$

上の仮定より,  $f(\bar{x}) = 0$  であることから,

$$(*) \iff f(x) = f'(\bar{x})(x-\bar{x}) + \frac{1}{2}f''(\bar{x})(x-\bar{x})^2 + \frac{1}{6}f'''(\bar{x})(x-\bar{x})^3 + \dots, \quad (**)$$

すなわち, 微分方程式  $x' = f(x)$  の右辺に (\*\*) 式を代入すると,

$$x' = f'(\bar{x})(x-\bar{x}) + \underbrace{\frac{1}{2}f''(\bar{x})(x-\bar{x})^2 + \frac{1}{6}f'''(\bar{x})(x-\bar{x})^3 + \dots}_{\text{2次以上の項}} \quad (***)$$

ここで,  $x - \bar{x}$  は微小な値をとるとして, 2次以上の項を (0 とみなして) 無視すると, (\*\*\*) 式は

$$x' = f'(\bar{x})(x-\bar{x}) \quad (\dagger)$$

と近似できる.

Step 3  $f$  の近似によって得られた (\dagger) 式の解の極限 (漸近挙動) の分類

授業中に解説します.

Steps 1-3 より, 元の微分方程式  $x' = f(x)$  の平衡状態  $x(t) = \bar{x}$  について, 次の命題が成立する.

命題. 次のことが成り立つ.

- (1)  $f'(\bar{x}) > 0 \implies x' = f(x)$  の平衡状態  $x(t) = \bar{x}$  は不安定である.
- (2)  $f'(\bar{x}) < 0 \implies x' = f(x)$  の平衡状態  $x(t) = \bar{x}$  は安定である.

なお,  $f'(\bar{x}) = 0$  のときは, 安定性の判別は不能である (安定であることも不安定であることもある).